

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-146270
(P2001-146270A)

(43) 公開日 平成13年 5 月29日 (2001. 5. 29)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームコード* (参考)
B 6 5 D 81/113		B 6 5 D 5/50	1 0 1 A 3 E 0 6 0
5/50	1 0 1	5/54	Z 3 E 0 6 6
5/54		81/06	1 0 4 A

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 3 頁)

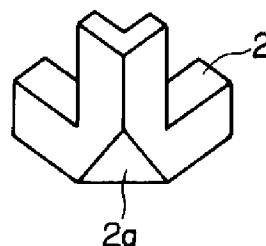
(21) 出願番号	特願平11-329175	(71) 出願人	000003595 株式会社ケンウッド 東京都渋谷区道玄坂1丁目14番6号
(22) 出願日	平成11年11月19日 (1999. 11. 19)	(72) 発明者	浅井 徹 東京都渋谷区道玄坂1丁目14番6号株式会 社ケンウッド内
		(74) 代理人	100085682 弁理士 柴田 昌雄
		Fターム(参考)	3E060 AB05 BC02 CC12 CC19 CC62 CE03 CE07 CE14 CE15 CE18 CE30 DA30 EA09 EA17 3E066 AA06 BA01 CA01 DA01 HA01 JA01 KA20 MA01 NA01 NA42

(54) 【発明の名称】 梱包材

(57) 【要約】

【課題】 梱包状態での落下衝撃を容易に検出できる梱包材を提供する。

【解決手段】 製品の角とダンボール箱の間に緩衝材を挟み込んだ状態で製品ダンボール箱内に梱包する緩衝材2とダンボール箱とからなる梱包材において、緩衝材2のダンボール箱の角に対向する部分に切欠部2aを設け、ダンボール箱の前記切欠部2aの稜線に対向する部分に破断線を入れた。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 製品の角とダンボール箱の間に緩衝材を挟み込んだ状態で製品をダンボール箱内に梱包する前記緩衝材とダンボール箱とからなる梱包材において、前記緩衝材の前記ダンボール箱の角に対向する部分に切欠部を設け、前記ダンボール箱の前記切欠部の稜線に対向する部分に破断線を入れたことを特徴とする梱包材。

【請求項2】 前記破断線を短い切込が連なる線または薄肉で形成される線とした請求項2の梱包材。

【請求項3】 前記切欠部は三角錐形状部を取り除くことにより形成される請求項1または2の梱包材。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は電子機器等の製品を梱包する梱包材に係わり、特に、梱包状態での落下衝撃を容易に検出できる梱包材に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、CDプレーヤ等の電子機器をダンボール箱等の梱包材に梱包する場合、図3に示すように、製品1の8方の角に発泡スチロール等の緩衝材4、4…を嵌めて、図4に示すようなダンボール箱5に入れダンボール箱5の蓋を閉じることにより梱包していた。

【0003】製品はこのように梱包された状態で搬送されるが、搬送時に落下による衝撃を受けることがある。落下した場合に特にコーナ部に衝撃荷重が集中して製品の破損が生じる恐れがある。しかしながら、上記のように製品の角に緩衝材を配置していると、衝撃を吸収して梱包材は破損しないこともある。

【0004】梱包材は破損せず、製品が破損した場合、外観上問題がなく、使用した初めて衝撃により破損したことが分かることになっていた。すなわち、落下衝撃による破損を判定することが簡単にできなかった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】この発明は上記した点に鑑みてなされたものであって、その目的とするところは、落下衝撃があった場合にそれを直ちに判定できる梱包材を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】この発明の梱包材は、製品の角とダンボール箱の間に緩衝材を挟み込んだ状態で製品をダンボール箱内に梱包する前記緩衝材とダンボール箱とからなる梱包材において、前記緩衝材の前記ダンボール箱の角に対向する部分に切欠部を設け、前記ダンボール箱の前記切欠部の稜線に対向する部分に破断線を入れたものである。なお、破断線とは力が加わると容易に破断するよに加工された線のことを意味している。

【0007】また、この発明の梱包材は、前記梱包材において、前記破断線を短い切込が連なる線または薄肉で形成される線としたものである。

【0008】さらに、この発明の梱包材は、前記各梱包材において、前記切欠部は三角錐形状部を取り除くことにより形成されるものである。

【0009】

【発明の実施の形態】この発明の実施例である梱包材を図面に基づいて説明する。図1はこの発明の実施例である梱包材の緩衝材を示す斜視図である。図に示す緩衝材2は発泡スチロールで作られており、図3の従来例で示されたごとく、製品1の8つの角に嵌められる。この緩衝材2は製品に嵌められたときに角に当たる部分が三角錐状に切り取られ切欠部2aが形成されている。

【0010】このように緩衝材2が嵌められた製品は図2に示すダンボール箱3に収納されてダンボール箱3の蓋を閉じることにより梱包される。ダンボール箱3には緩衝材2の切欠部2aの稜線に対向する部分に切り込みが連なる破線3a、3a…が設けられている。

【0011】このように製品が梱包された状態で角部が衝撃により脱落しやすくなっているため、製品に故障が発生するような強い落下衝撃を受けたときはダンボール箱3の角部が欠落し、衝撃があったことを直ちに判定でき、使用者に不良品が渡ることが防止される。また、運送途中の事故が分かることから責任の所在が明確になる。

【0012】実施例は以上のように構成されているが発明はこれに限られず、例えば、破断線を切り込みが連なる線とする代わりに薄肉で形成される線としてもよい。

【0013】

【発明の効果】この発明の梱包材によれば、製品が梱包された状態で角部が衝撃により脱落しやすくなっているため、製品に故障が発生するような強い落下衝撃を受けたときはダンボール箱の角部が欠落し、衝撃があったことを直ちに判定でき、使用者に不良品が渡ることが防止される。また、運送途中の事故が分かることから責任の所在が明確になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施例である梱包材の緩衝材を示す斜視図である。

【図2】同梱包材のダンボール箱を示す斜視図である。

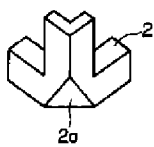
【図3】従来の梱包材の緩衝材の例を示す斜視図である。

【図4】従来の梱包材のダンボール箱を示す斜視図である。

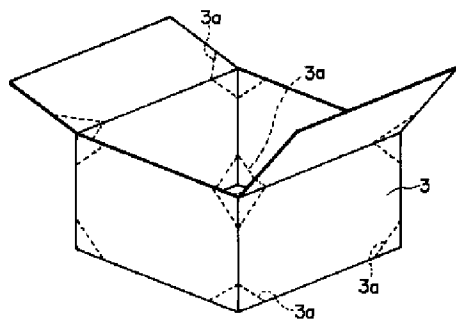
【符号の説明】

- 1 製品
- 2 緩衝材、2a 切欠部
- 3 ダンボール箱、3a 破線
- 4 緩衝材
- 5 ダンボール箱

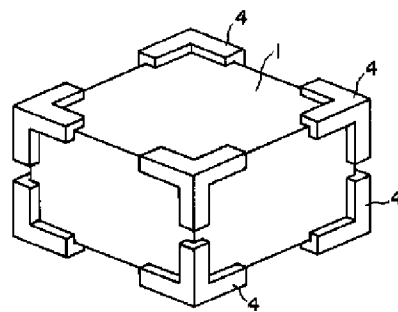
【图 1】



【图 2】



【图 3】



【图 4】

